

全教神協広報

第一一一号

全国教育関係神職協議会

〒一五〇〇五三

東京都渋谷区代々木一―二

神社本庁内

電話〇三―三三三三九八〇―

FAX 〇三―三三三三九八二九

題字 諏訪秀一氏

全教神協創立六十周年の重み

全国教育関係神職協議会 副会長 鈴木 俊子



全国教育関係神職協議会創立六十

周年記念第六十一回全国大会が去る

八月十日・十一日愛知県で無事に開

催されました。コロナ禍に遭い実に

三年ぶりの意義深い大会となりました

た。寶來会長の御決断と愛知県教神

協会員の御尽力に頭の下がる思いで

す。御來賓に神社本庁田中恆清総長

をはじめ愛知県神社庁岩崎和夫副庁

長、皇學館大学秦昌弘理事、全国氏

青協今富一義副会長、日本教師会若

井勲夫会長にお越しいただき祝辞と

共に励ましのお言葉を賜わりました。

昭和三十五年、荒廃した敗戦後

の日本の教育を立て直そうと奮起さ

れ、未来の子どもたちのためにと立

ち上げられ本会を創立された諸先輩

方の熱意と努力の日々を、私達会員

は決して忘れてはなりません。

今、日本を取り巻く状況は内外共

に危機迫るものがあります。戦後

七十七年が経ち、当時の事を克明に

知る世代の方々が鬼籍に入られてお

ります。二十年后三十年後の日本を

思う時、今やらねばならないことが

見えてきます。教員として教壇に立

ち子どもたちと接し、お社ではあら

ゆる年代の方々とお会いする私達全

教神協の会員が今出来ることは、日

本人として生まれてきたことに誇りと自覚を持ち、日本の国のために努力する人を地道に育てていくことに他なりません。

この夏の全国大会の主題「輝かそう日本人の誇り、正そう日本の教育」のもとに分科会で深め合った「国家意識への教化」「国史国文への教化」「道徳としての神道教化」を更に、日常の中で会員一人ひとりが研鑽を積み、信念を持ち誠実に生きる中で得た思いを、学校、又御社頭にて実践を通じて教え導いていくことが出来たら、着実にその強い思いや教えは根付いていくと信じたのです。置かれていた状況はそれぞれ違います

が、それぞれの地域で会員一人ひとりが実践の日々を続けていけば必ず十年後、二十年后に繋がっていきま

す。教育も神職としてのつとめもすぐには結果が出るものではない、目に見えるものではないのだと胸に刻

み、地道な努力を重ねていくしかありません。その根幹には、自らが学び

び続けていくこと、正しい歴史認識を持つこと、内外の社会情勢を正しく見極めていくこと、今自分に出来る

ことが何であるかを常に考え抜き、前向きでいることが支えとなります。今まで全教神協の諸先輩方が

歩まれてこられた様に、めまぐるしく忙しい日々の中でも本質を見失わずにしっかりと神明奉仕を行って

いく日常の中にしか原動力の種はありません。

平成二十七年の長崎大会でのことです。正式参拝するお宮へ向かうパスの中、運転手さんから一言御挨拶の場面がありました。「私はこの様な会があることは知りませんでした。今日少しかだけお話を聞かせていただき大変感激致しました。」と仰言

られました。とにかく地道にやっていくしかないのだけれど必ずや誰かの心に着実に届くのだと思えた一瞬でした。来年は、福島県での全国大会です。同志が顔と顔を合わせ、知恵を出し合い、お互いの地域での実践の日々を報告し合い次に結び付けて更なる糧とする大会となることを願って止みません。困難な時代こそ

が全教神協を力強く繋げてきたのだと思ひ、諸先輩方が積み重ねてこられた六十周年の努力の重みに今、改めて感謝の思いがつります。

一つ一つの瞬間を大切に、諦めず、温かい言葉を掛け、時に厳しく論じていきながら、日本の子どもたちの

本当の幸せのために会員一丸となつて努力し続けて参りたいと思います。